

# 杉並農人

Suginami

Nōjin

創刊号



# 杉並は農家が素敵だ。

杉並には、地域の人たちとの「ふれあい」を大切にする農業者がいます。学校給食に新鮮な地元野菜を届けて子供たちの「食育」に一役買い、収穫体験などを行って都市農業の「今」を伝えています。農産物直売所や即売会では、自慢の品を威勢よく販売する声を響かせています。現在、東京23区で農地があるのは杉並を含めて10区のみ。都会でがんばる杉並の農業者を“杉並農人”と呼び、紹介してまいります。

## DATA 杉並区の農業

□ 農家戸数：150戸 ※平成27年4月現在

□ 農地面積：45.72 ㌔ (45万7200㎡) ※平成27年4月現在  
※農地のある区部10区で5番目の農地面積。  
※野菜・果樹の他、植木・切り花等の栽培も多い。

□ 野菜の生産量ベスト3 (平成24年度)	1位	ダイコン	138トン (13万8000kg)
	2位	トマト	114トン (11万4000kg)
	3位	ナス	108トン (10万8000kg)
□ 果物の生産量ベスト3 (平成24年度)	1位	柿	15トン (1万5000kg)
	2位	キウイフルーツ	7トン (7000kg)
	3位	甘夏	6トン (6000kg)



## たくさんの子供たちに、杉並産の野菜を届けたい

中央高速道路・高井戸ICのすぐ近く、マンションが立ち並ぶ一角に、「こんな都会に」とびっくりするような広い畑がある。遠くまで続く長ネギの畝（うね）。青々と葉を伸ばしたサトイモやキュウリ。鈴木宗孝さんが働く農場だ。初夏の日の暑い朝、併設する野菜直売所を訪ねると、すでに人の列ができていた。ナス、ピーマン、いんげん、枝豆と、季節の野菜が次々と売られていく。

鈴木さんは現在、JA東京中央城西地区で青壮年部の部長を務め、区内の若手農業者のリーダー的存在だ。農繁期の4月～7月は午前3時から夕方まで農作業を行い、夕食後も出荷伝票を準備。合間に、JAや地域の会合に出かけるという多忙な日々が続く。最初は農家を継ぐ気はなかったという鈴木さん。「若い頃は電気工事会社の現場監督の仕事が面白くて農業に目が向かなかった。26歳の時にいったん就農しましたが、1年でドロップアウトして前職に戻りました」と、当時を振り返る。転機は28歳。当時はバブル期の終わり、地価が高騰し農地はどんどん宅地になっていった。「それを目の当たりにして、ハッとしました。都市農業は時代と逆行しているかもしれないが、自分たちの代で潰していいのかと」。



掘りたてのダイコン。群馬県の米農家からワラやヌカなどを仕入れ、土づくりを生かしている。

その後、鈴木さんは両親の下で農業に打ち込んだ。専門書で栽培方法を研究し、多摩地域の農業者を訪ねて最新の技術を教えてもらうこともあった。「最初は父から『まだ早い』と栽培の難しいキュウリは作らせてもらえなかった」と笑う鈴木さんだが、今では、年間50種類以上の野菜の栽培を管理する。収穫した野菜のうち約5割は直売所で販売し、約2割をレストランなどの外食産業に卸している。限られた耕地で面積当たりの単価を向上させるため、付加価値の高い野菜を消費者の要望に応じて生産するという、少量・多品目の野菜栽培を実践している。

残りの約3割は、最近特に力を入れている、杉並区内の小中学校給食で使う野菜に充てている。「5年前、近くの富士見丘小学校に納めたのをきっかけに、他の小中学校からも注文が来るようになりました。現在は、若手農業者4人が集まり、富士見丘小のほかに9校と契約を結び、献立に応じて新鮮な野菜を届けています」。3人の子の父親でもある鈴木さんは「都会の子供たちに自分の作った野菜を通じて農業を知ってもらいたい。将来は、区内だけでなく都内各地の小中学校の給食で“メイドイン杉並”の野菜を使ってもらえるのが夢ですね」と、目を輝かせた。



直売所の常連の一人が「旬の新鮮な野菜が安く手に入るので、よく買いに来ます。この枝豆を食べたら他のは食べられない」と話してくれた。

## 鈴木 宗孝

昭和42年生まれ。上高井戸地域で代々農家を営む家系の11代目。約86㍍（8600㎡）の畑を、妻と二人で経営。就農前は電気工事会社で現場監督を務めていたが、28歳の時、本格的に父から農業を引き継ぎ、就農。現在、露地・ハウスで、年間50品目以上の野菜を栽培している。

JA東京中央城西地区青壮年部部长

直売所：杉並区上高井戸2-8  
不定休（営業時間9時～なくなり次第終了）





## 井口 幹英

昭和46年生まれ。江戸時代から続く農家の11代目。約20㍍(2,000㎡)の畑で、年間20品目以上の野菜を栽培。大学卒業後は大手自動車販売会社のディーラーとして活躍し、29歳で就農。杉並区内を代表する若手農業者の一人。

J A 東京中央城西地区青壮年部副部長  
一般社団法人日本野菜ソムリエ協会認定・  
野菜ソムリエ

直売所：杉並区清水 1-31-14  
不定休（夏季：16時頃～、冬季：14時頃～）



普通より柄が長い愛用の鍬は、銀座の鍛冶職人が作ったオーダーメイド品。就農した時に、知人から譲り受けた。鍬は畑を耕すだけでなく、種まきの溝掘り、土寄せなど、小回りの効く万能の道具。都会の真ん中のコンパクトな農地で、効率的に農作業をするための必需品だ。「使いこなせるようになるまで3年かかりました」と、井口さん。

## こだわり野菜の魅力、手渡しで

荻窪駅北口から徒歩約13分。住宅街の一角に、手入れの行き届いた野菜畑がある。井口幹英さんが経営する「IGUCHI mini FARM」だ。「ネギ作り名人」と呼ばれた祖父の姿を見て育ち、いつかは農業を継ぐ決意だったという井口さん。29歳で、父から無農薬・有機の野菜作りを引き継いだ。

通りから見える畑の看板には、「こだわりの技術(knack)を駆使してやっています。早いもの勝ちだよ」という意味の英文キャッチコピーが。「この農場にはいろんなこだわりが詰まっているんですよ」と、井口さんは愛用の鍬(クワ)を手に、農場を見渡した。井口さんの一番のこだわりは、野菜の栽培方法だ。無農薬を貫くため、最新の農業技術を駆使している。防蛾灯、アブラムシが嫌がる線が入ったマルチングシート、非常に目の細かい防虫ネット…。何げない畑の風景にも工夫がいっぱいだ。

生産している野菜の種類にも、こだわりがある。江戸時代に杉並区で発祥したと言われている「伝統大蔵大根」や、冬の霜に当てて甘みを出した一株5kgもある漬物用の大型白菜など、市場ではなかなか手に入らない貴重な野菜を育てる。

生産した野菜の9割は、畑の前の直売所で対面販売

する。夏はトマト、ナス、枝豆、トウモロコシ、冬はダイコン、白菜。新鮮な野菜を求めてやって来る近所のお客さんに、野菜と一緒に+αの情報も手渡したいと、会話を欠かさない。「無農薬なので、キャベツの外葉に多少の虫の跡があったり、ジャガイモの表面がザラザラだったりすることも。でも、それは安全・安心の証し。説明すれば野菜の魅力が変わります」。見た目だけでない旬の野菜の美味しさを伝えたくて、就農後まもなく野菜ソムリエの資格も取った。食べる人と直接コミュニケーションを取れるのが都市農業の魅力だと、井口さんは感じている。

都会であっても農業は自然相手の仕事。気温や降雨量などに収穫量が左右され、炎天下の作業もある。「基本的に休みがないので旅行に行けない、体力的に辛い。でも、農業は面白い。野菜を作る感動をお客様に伝えられる、幸せな仕事」。平成27年1月には、アパートだった土地を農地に転用して、畑を拡張した。「大事な決断をする時は、尊敬していた祖父の顔が浮かびます。こんな時、じっちゃんだったら、どうするかな、と。農地を守ってきた先祖に感謝し、ビジネスチャンスを広げていきたい」と、井口さんは力強い笑顔を見せた。



トマトの枝を支柱に結ぶ作業。露地栽培のトマトは、井口農場でも人気の夏野菜の一つで、ファンも多い。



農場の入り口に設置した看板。友人のイラストレーターがデザインを手がけた。

## こんな取り組みをしています

### 地元野菜デー



杉並産野菜を学校給食へ提供する取り組み「地元野菜デー」。これは、子供たちに食を通じて地域を理解してもらうため、J A東京中央城西地区及び同杉並中野地区の青壮年部の農業者が中心となり、平成20年度に始まりました。その後、平成25年度までは年2回、農業者がJ A杉並グリーンセンターに野菜を集め、梱包、各学校への配送（小・中・特別支援学校：1回の開催あたり平均35～45校）を行ってきました。また、平成26年度から、各学校への配送は「配送モデル事業」を展開するようになりました（杉並区協働事業提案団体であるヤマト運輸埼京主管支店が担当）。この事業は農業者の負担を減らし、開催回数を増やすことを目的としていますが、これにより、平成26年度には3回、平成27年度は4回の開催が可能となりました。



### ふれあい農業体験

区民が農地を訪問し、農業者から耕作状況、農産物の特徴や調理方法などの説明を受け、野菜の収穫や園芸作業を体験する「ふれあい農業体験」。同行する農業委員や地域農業者と意見交換するなど、相互理解を深めています。平成26年度は12月に上高井戸地区で実施し、キャベツ、ホウレンソウ、ダイコンなどの収穫を体験しました。年1回開催されますので、体験を希望される方は区役所HPや広報すぎなみでご確認のうえお申込みください。



直売所以外でも、杉並の野菜はさまざまな機会・場所で買えます。ぜひ足を運んでみてください。

開催日	名称	場所	販売農産物	問合せ先
毎週火・木・土曜 (朝10時～ ※売り切れ次第終了)	農家共同直売	ファームショップあぐりへん ／阿佐谷南3-13-2	野菜・草花	JA杉並グリーンセンター ／03-5349-8791
毎週火曜	杉並中野支店 展示即売会	JA杉並中野支店前 ／桃井2-3-4	野菜・草花	JA杉並中野支店 ／03-3399-8983
毎月第3土曜	座の市	座・高円寺 ／高円寺北2-1-2	野菜	座・高円寺 ／03-3223-7500

開催日	名称	場所	販売農産物	問合せ先
10月10日(土)	アグリフェスタ2015	世田谷区内(烏山区民センター 広場/世田谷区南烏山6-2)	野菜・草花	産業振興センター都市農業係 ／03-5347-9136
10月10日(土) ・11日(日)	阿佐谷グリーン マーケット	阿佐ヶ谷神明宮 ／阿佐谷北1-25-5	野菜、花木、 園芸用品	阿佐ヶ谷神明宮 ／03-3330-4824
10月12日(月祝)	永福体育館 秋のスポーツまつり	区立永福体育館 ／永福3-51-17	野菜・草花	産業振興センター都市農業係 ／03-5347-9136
10月12日(月祝)	下高井戸区民 集会所まつり	下高井戸区民集会所 ／下高井戸3-26-1	野菜	永福和泉地区区民センター 協議会／03-5300-9412
10月17日(土)	障害者福祉会館まつり	杉並障害者福祉会館 ／高井戸東4-10-5	野菜・草花	産業振興センター都市農業係 ／03-5347-9136
10月25日(日)	永福町 オータムフェスティバル	永福町南側 永福通り周辺	野菜	JA杉並グリーンセンター ／03-5349-8791
10月30日(金) ・31日(土)※予定	杉並中野生産部会 即売会	JA杉並中野支店前 ／桃井2-3-4	野菜・草花	JA杉並中野支店 ／03-3399-8983
10月31日(土)	花と緑の井草祭り	井草の森公園 ／井草4-12-1	野菜・草花・植木	東京商工会議所杉並支部 ／03-3220-1211
11月7日(土) ・8日(日)	杉並区農業祭 (すぎなみフェスタと同時開催)	桃井原つば公園 ／桃井3-8-1	草花・植木・野菜	産業振興センター都市農業係 ／03-5347-9136
11月7日(土) ・8日(日)	農芸祭	都立農芸高校 ／今川3-25-1	草花・果樹・ 加工食品ほか	同校／03-3399-0191
11月21日(土) ・22日(日)	城西地区展示即売会	JA東京中央城西支店 ／成田東5-18-7	野菜・草花・ 植木(パザー有)	JA杉並グリーンセンター ／03-5349-8791
12月中旬の金曜	杉並中野生産部会 即売会	区役所庁舎前広場 ／阿佐谷南1-15-1	野菜・草花	JA杉並グリーンセンター ／03-5349-8791
12月下旬	城西生産部会 歳末即売会	区役所庁舎前広場 ／阿佐谷南1-15-1	野菜・草花	JA杉並グリーンセンター ／03-5349-8791
12月25日(金) 及び1月下旬 ※予定	グリーンクラブ 歳末及び新春即売会	区役所庁舎前広場 ／阿佐谷南1-15-1	野菜・草花	産業振興センター都市農業係 ／03-5347-9136
3月下旬の土日	春の草花・植木・野菜等 即売会	区役所庁舎前広場 ／阿佐谷南1-15-1	草花・植木・野菜	産業振興センター都市農業係 ／03-5347-9136

# 地域の声

上井草

下井草

初めて即売会で朝採れ野菜を口にしました。  
柔らかく味のしっかりした野菜にびっくり  
しました。

(主婦・上荻・80代・女性)



杉並で生まれ育ちましたが、区内に畑がある  
なんて最近まで知りませんでした。知人に教  
えてもらって野菜を買って食べてみると…！  
野菜のイメージが180度変わりました。

(学生・高円寺北・20代・女性)

年に3～4回、区立小・中学校で一斉に区内産  
の野菜を給食に使います。新鮮で美味しい野菜  
を、未来を担う子供たちに定期的に提供でき  
るのはとてもありがたい事で、地産地消の良さを  
伝える絶好の「教材」です。

(区内中学校栄養教諭・30代・女性)



西荻窪

「東京の農業（野菜）って一番安全なんだよね。  
新鮮で美味しいしね」。住宅街にある農地で作  
る作物は、におい等の苦情対応として必然的に  
無農薬や低無農薬となり、結果、安全な野菜と  
なっています。

(区内小学校栄養教諭・50代・男性)



自宅から自転車で15分のところに偶然畑を  
見つけ、この夏、初めて枝豆を購入してみま  
した。その新鮮さに見事にハマりました。

(会社員・西荻南・30代・男性)

鮮度が良い、味が濃い。食べるたびに、野菜  
本来の美味しさが感じられて嬉しくなりま  
す。東京に住んでいても地元で畑があるって  
素敵なことですね。

(団体職員・久我山・40代・女性)

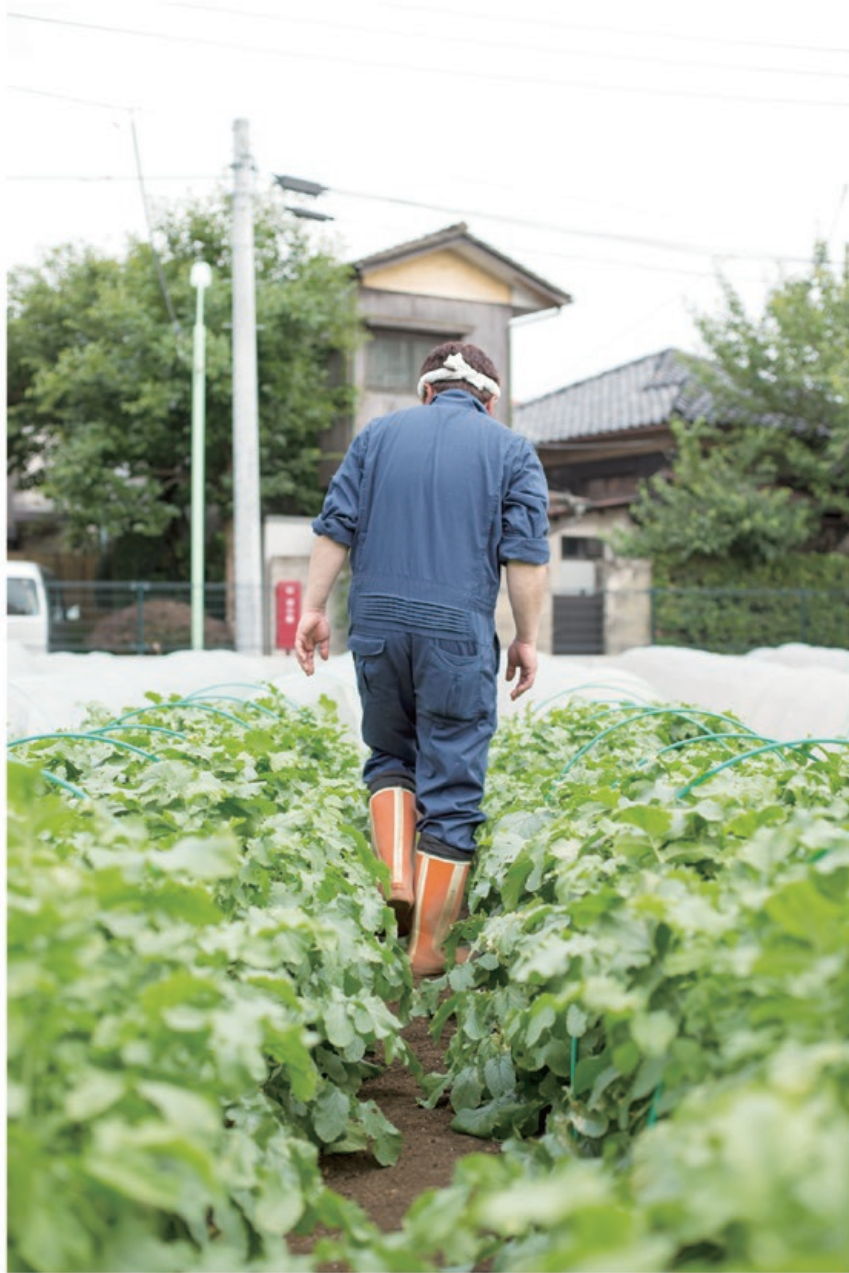


浜田山

近所の直売所で、有機無農薬の野菜を買うのが楽  
しみです。3歳の息子のお気に入りにはピーマン。  
「甘くておいしいね」と笑顔で食べています。

(主婦・高井戸東・30代・女性)





## 杉並農人 創刊号

---

平成 27 年 10 月

企画・制作：杉並区地産地消推進連絡会

協力：杉並区農業者（JA 東京中央城西生産部会、JA 東京中央城西地区青壮年部、JA 東京中央杉並中野生産部会、JA 東京中央杉並中野地区青壮年部、  
柿木園芸研究会、井草園芸研究会、高井戸花卉研究会、杉並区グリーンクラブ）、JA 東京中央、杉並区民の皆さん

◎お問い合わせ

杉並区産業振興センター都市農業係 〒167-0043 杉並区上荻一丁目 2-1 インテグラルタワー 2F TEL：03-5347-9136

参考：杉並区発行『ふれあい農業すぎなみ 農産物直販マップ 2015』

※杉並区 HP でも公開しています。「農業振興」で検索してみてください。